

第19回 KFAストリートサッカー大会 in かんまちあ 競技規則

1. 競技

- ①基本的なルールは、日本サッカー協会11人制サッカー競技規則による。
- ②以下に掲げる点については、本大会の特別ルールとし、優先とする。

2. 各チームの構成人数

- ①選手は、フィールドプレーヤー4名、ゴールキーパー1名、交代選手5名となる。
- ②交代選手は、ゴール裏の交代ゾーン内で待機し、チームのタイミングで交代すること。
審判に告げる必要はないが、コートの中にいる選手が完全に外に出てから、交代選手が中に入ること。
これに違反し、相手チームの得点を妨害した場合は、相手チームにペナルティーシュートを与える。
- ③選手交代は何人でも、何回でも構わない。再出場も認める。

3. 試合時間

- ・予選リーグ・決勝トーナメント共に、7分1本(ハーフタイムなし)。
但し、決勝戦のみ、前後半7分、ハーフタイム3分とする。
なお、決勝トーナメントにおいて勝敗が決しない場合は、3名ずつのペナルティーシュート方式にて勝敗を決する。

4. 試合開始

- ①試合開始時刻に遅れた場合は棄権とみなし、相手チームに勝ち点3を与える。
- ②審判によるドロップボールをもって試合開始とする。ボールがワンバウンドするまで動いてはいけない。
- ③得点が決まった場合は、決められたチームのゴールクリアランス(GKが手で投げる)から試合再開とする。

5. ゴールキーパー

- ①ゴールキーパーはペナルティーエリアを出てもよい。
- ②ゴールキーパーは足で蹴った場合のみ、直接ゴールを決めることができる。
- ③ゴールキーパーは味方からのバックパスを手で扱ってはならない。
- ④キャッチした場合は敵陣にノーバウンドで、ボールを投げ入れたり、キックしたりして入れることは出来ない。
- ⑤ゴールキーパーはペナルティーエリア内で5秒以上、ボールを保持出来ない。

6. ペナルティーエリア

- ①フィールドプレーヤーは、敵陣・自陣を問わず、ペナルティーエリアに入ってプレーしてはならない。
(注:オンラインも不可)
- ②守備側が自陣のペナルティーエリアに入った場合、入ったライン上から、攻撃側に間接フリーキックが与えられる。
- ③攻撃側が相手側のペナルティーエリアに入った場合、守備側にゴールクリアランス(GKが手で投げる)が与えられる。

7. ペナルティーシュートになるファウル

ボールを持った選手に対して、危険なチャージやスライディングタックルをしたと審判が判断した場合。

<ペナルティーシュートの進め方>

シュートを行う選手は、センタースポットから敵陣ゴールへ向かってドリブルで進み、シュートを打つ。

この時、シュートを打つ選手は敵陣のペナルティーエリア内に入ってシュートを打つことは出来ない。

この間、守備側のGKを除く残り全ての選手は、シュートを打ち終わるまで攻撃者側の陣地に入っていないなければならない。シュート後は、通常通りゲームが続行される。(ドリブルスタートまでの間は、競技時間が止まります。)

8. 間接フリーキックになるファウル

①ゴールキーパーが味方からのバックパスを手で扱った場合。

②守備側の選手が、自陣のペナルティーエリアに入った場合(オンラインも不可)。入ったライン上から再開する。

③ゴールキーパーがペナルティーエリア内で5秒以上ボールを保持した場合。

④ゴールキーパーがキャッチしたボールを敵陣にノーバウンドで、投げ入れたり、キックした場合。

ハーフウェイラインから再開する。

⑤守備側の選手は、ボールから2m以上離れなければならない。

⑥その他、サッカー競技規則に準ずる。

9. アウトボール

①ボールがサイドバリアを超えた場合、試合開始時と同様の形で再開する。

②ボールがエンドバリアを超えてしまった場合、どちらのチームが最後にボールを触ったかに関わらず、ボールが出たエンドバリア側のゴールクリアランスで再開する。

10. ファウル

審判は反則やスポーツマンらしくからぬ行為に対し、以下のような罰則を課すことが出来る。

<警告>イエローカードの提示(1試合に2回警告を受けると退場。)

悪質な反則により警告を受けたプレーヤーは、それ以後、試合終了まで出場を認めない。

但し、代わりの選手を入れることは出来る。

<退場>レッドカードの提示

チームは残り時間を一人少ないまままで試合を続ける。

11. その他

①オフサイドはありません。